

2015年2月12日
【第6回知の市場年次大会】
開講拠点と開講機関

東京・西早稲田(1)労研 (労働科学研究所・早稲田大学規 範科学総合研究所)

公益財団法人労働科学研究所
北島洋樹

1

労働科学の生い立ち



労働科学とは、働く人々の安全と健康に資するための総合科学
(医学、心理学、化学、心理学、工学、社会科学・・・)

労働科学研究所は二人の出会いから 始まった

大原孫三郎

(画: 中沢弘光、部分)



1920年、深夜の工場抜き打ち視察

働く人の安全と健康を守るための研究と
実践を目指す

暉峻義等

(画: 田中謹左右)



倉敷労働科学研究所時代

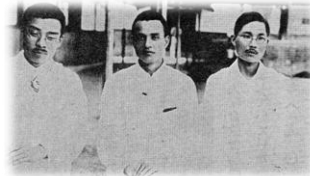


工場の敷地内に立地、女工らと寝
食を共にデータを収集した



労作中の呼気採取風景

大正9年（1920）夏の昼夜交代作業の予備調査



桐原葆見 (28) 暉峻義等 (31) 石川知福 (29)
(心理学) (生理学) (衛生学)



海女の潜水の生理学的研究

1960年代～1990年代



航空管制官の労働負担調査
(1960年代)



ダイカスト工場における職場環境調査



本四架橋工事落下防止調査



VDT作業の健康影響調査

現在

教育
研修
事業



セミナーでのグループワーク
(職場環境改善とメンタルヘルス)

調査
研究
事業



大型発電所における当直勤務評価研究

国際
協力
事業



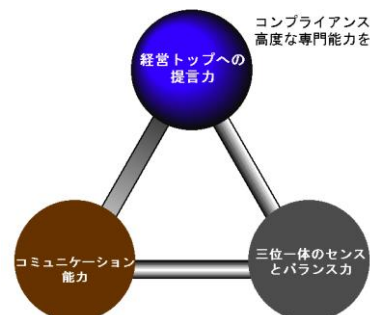
ヴェトナム農村の生活調査

出版
事業



出版部刊行物 (単行本、学術雑誌、普及誌)

産業安全保健分野の 人材養成の考え方と目標



コンプライアンス・CSRを背景に
高度な専門能力を生かして

専門能力を机上のものではなく、
業務に生かす発想力を基礎に

複合化、多様化するリスクへの対応
のため、安全・健康・職場環境を
三位一体的に捉えて

- **三位一体アプローチ**による統合視点を重視
(現場状況の適切な把握と、
問題解決ができる)
- **トップへの提言力**をもつ
ことができる(安全保健
が経営の要件であることを
発信できる)
- **CSR概念**を具備し、実践
できる

7

本養成コースが要求する コンピテンシー (専門能力)

- 経営戦略としての安全保健活動についての理解
- 安全文化の評価法と組織改善に関する理解と実践
- 働き方や休養の取り方と過労・メンタルヘルスの
関連を分析し、有効な対策を提案する能力の構築
- 化学物質の危険有害性に関するリスクアセスメン
トやリスクコミュニケーションの考え方と手法の理
解
- 三位一体アプローチに基づく安全保健活動の理解
とリーダーシップの発揮

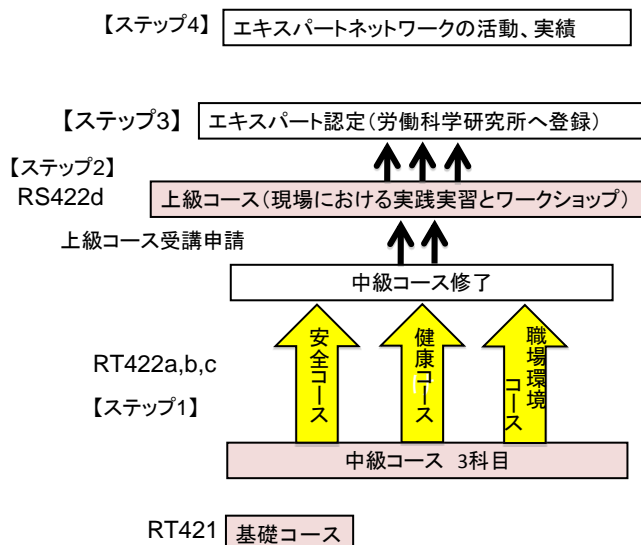
8

2015年度開講科目

科目番号	科目名	副題	拠点（開講機関）
共催講座 RT 4 2 1	労働科学	産業保健の基礎：労働科学の歴史と展開	東京・西早稲田（1）労研 （労働科学研究所、早稲田大学規範科学総合研究所）
共催講座 RT 4 2 2 a	労働科学特論a	産業安全保健エキスパート養成コース（安全）	
共催講座 RT 4 2 2 b	労働科学特論b	産業安全保健エキスパート養成コース（健康）	
共催講座 RT 4 2 2 c	労働科学特論c	産業安全保健エキスパート養成コース（職場環境）	
関連講座 RS 4 2 2 d	労働科学特論実習1	産業安全保健エキスパート養成最終コース（現場実習）	神奈川・川崎宮前区（労働科学研究所）

9

各科目の関係 （産業安全保健エキスパート養成コース）

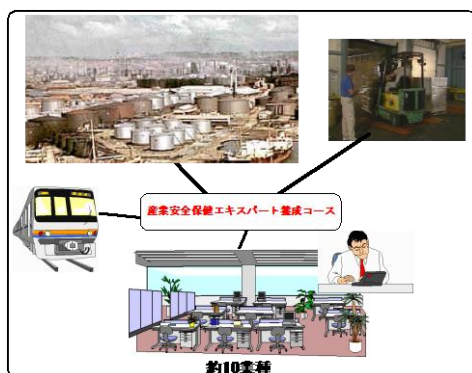


RT422abc: 共通講義の仕組み

共通講座(I)	1	オリエンテーション				
	2	総括的講義/労働安全衛生の動向				
	3	総括的講義/労働安全衛生関連法令				
	4	経営トップ講義				
		RT422a(安全)	RT422b(健康)	RT422c(職場環境)		
講義	5	ヒューマンファクターにおけるコミュニケーションの重要性	5	職場環境改善を通じた働きやすい職場づくり	5	化学物質管理
	6	緊急時対応の実際	6		6	安全衛生マネジメントシステム
	7	技術者倫理とコンプライアンス	7	健康へのアプローチと作業負担の	7	職場環境測定・評価
	8	心理測定の基礎	8	新しい精神障害認定基準の解説と	8	日本の化学物質管理に欠けているもの-GHSから考えるー
演習	9	安全文化の本質とその醸成	9	現代労働者の疲労回復に必要な睡	9	
	10	課題の実施	10	オフィスエルゴノミクス	10	職場環境対策
	11	事故分析実習	11		11	環境リスクアセスメント
講義	12	総合的マネジメントと社会的責任	12	ユーザビリティ評価の方法	12	保護具の有効活用
	13	安全工学による産業安全向上	13	増え続ける筋骨格系疾患への対応	13	
ケーススタディ	14	産業事故の原因を探る	14	産業保健の取り組み-新型インフルエンザへの取り組み経験を活かすー	14	熱中症対策
	15		職場における健康リスクの同定と理解	15		
共通講座(II)	16	実践実習				
	17	グループワーク				
	18					
	19					
	20	ワークショップ				
	21					
	22					
23						

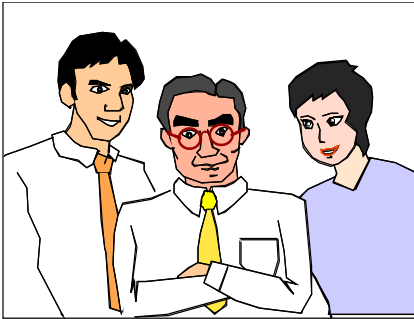
グループワーク、ワークショップでは、修了者(エキスパート)が多数ボランティア的に参加

コース・共通講義の効果 : 異業種交流



- 他業種の方のものの方が大変参考になった
- 自社・或いは同業種では思いも寄らない視点に刺激を受けた
- 修了後も連携しやすかった

コース・共通講義の効果： 様々な世代の参加



- 会社では(恐らく)対等には話せない、目上の方とも、同じテーマについて語り合えた
- (最近若い奴は)ということを感じることなく接することが出来た

(アラサーからアラカンまで) 一種の異文化交流

13

コース・共通講義の効果： 同じ釜の飯



- 地方からの参加で、最初は夕食も1人でとっていたが、いつしか(都内の参加者も)つきあってくれるようになった
- 夜の部では、より腹を割った議論が出来た
- 同期の連帯感を得ることが出来た

同期の桜 (この桜は散りません)

14

2014年度実績

2014年度	科目名	科目No.	申込者	受講者	修了者	
前期	労働科学	RT421	8	8	7	確定
後期	労働科学特論a	RT422a	8	8	8	見込
後期	労働科学特論b	RT422b	13	13	13	見込
後期	労働科学特論c	RT422c	9	9	8	見込
関連講座	労働科学実習1	RS422d	9	9	9	見込

知の市場からの受講者が増加
全体として受講者は増加傾向
上級コース（RS422d）の希望者が増加

15

エキスパートネットワーク

エキスパートの継続的な 能力アップ支援

- 追加教育の実施
- 異業種交流の促進
- ネットワークと情報共有
(修了者／企業・講師・労研)

エキスパートとの共同事業

- 企業での課題解決支援
エキスパートの活躍の場の確保
- エキスパートとしてのキャリア
モデルの構築
- 中小企業への独自事業展開

エキスパートによる自主運営の支援

16

エキスパートネットワークの活動

①ネットワークの会(年一度の総会)

2014年8月29日(金)／電源開発株式会社 磯子火力発電所
発電所の見学、エキスパート活動報告／参加者29名

②懇親会

2014年10月23日(木) 広島
「安全衛生大会」参加者による集い／参加者12名

③見学会の開催

2014年12月24日(水)／日本電子株式会社
電子装置の見学／参加者6名

④その他

随時、修了者ネットワークによる、情報交換、研究会、懇親会の開催。

17

エキスパートネットワーク 新しい成果の一例

- 椎名和仁, 北島洋樹
屋外と屋内での電気通信工事現場における
ヒヤリ・ハットの比較分析(第2報)
—転落・転倒災害に関する作業内容と
の要因分析—、労働科学, 89(4), 140~148
, (2013)
- 多田 恵, 松田文子
高年齢労働者の活躍を促す取り組みに関する
事例研究、労働科学, 89(4), 149~153,
(2013)

18

今後の課題

- 受講者の拡大
- 受講者にとって魅力のあるエキスパート活動の一層の活性化
- 中小企業を対象とした新しい試みの展開
- エキスパートへの継続的な修練環境の提供